

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立思斉小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「週末作文」の取組は、前年度校内研究の展開部分における「思考力・判断力・表現力」を高める取組にも、よい効果をもたらした。一方で、授業や生活場面、家庭学習における一人一台PC活用は十分ではない。校内研修や学力向上シートとの連携、ICT活用研修等で全職員で共通理解して授業実践を進める。 地域との連携において、地域連携の取組の深化や人材開拓に課題がある。まちづくり協議会や学校評議員等との連携とカリキュラム・マネジメントへの着手により、この課題解決を図る。 前年度の取組目標であった小中合同ボランティアと小中合同引き渡し訓練を実施できた。特に小中合同ボランティアは、新たに地域と連携して行うことができ、今年度は更に充実を図る。
------------------	---

2 学校教育目標	『見賢思斉』の精神で たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成
----------	--------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 学力向上を図る。 ② 地域連携の取組の深化と人材開拓を行う。 ③ 小中連携を推進し、生徒指導・教育相談・校内研修・学校安全の充実を図るとともに、児童生徒の交流を深める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	達成度 (評価)	学校関係者評価		
				進捗状況と見通し	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践と書く力の育成	○「授業や単元の終末に自分の考えたことやわかったことを表現することができる」と肯定的に回答する児童90%以上を目指す。 ○授業や日常の中で「書く活動」「交流活動」「振り返り活動」を取り入れていると肯定的に回答した教員を90%以上にする。	・「書く力」を伸ばすための取組を授業や日常生活で取り入れる。(週末作文の継続、自分の考えの表出、振り返り等) ・校内研究を柱に据えて、「思考力・判断力・表現力」を高める取組を実践する。(全職員で校内研究に関わる) ・児童のICT活用能力の向上やICTを効果的に活用した授業づくりを目指し、タブレットの活用を積極的に行う。研修を企画し、職員のICT活用の意識を高め、指導力向上を図る。					学び部 学力向上
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にする。	・人権集会や人権タイム、ほかほかココアの取組を実施し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりや心の育成を図り、学校全体に支持的風土を醸成する。 ・授業参観でふれあい道徳授業を実施したり、人権タイムにおいて学年部で検討して授業を実施したりすることで、道徳の授業の充実を図る。					誇り部 道徳教育 人権教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの覚知、認知に係る組織的対応ができていてと回答した教員を90%以上にする。	・日常的な見取りや情報収集により、いじめの早期発見早期対応を行う。学年主任・管理職・SC・SSW等との連携を取りながら、組織的に児童の指導・保護者対応にあたる。 ・児童支援協議会を実施し、全職員による対応を協議する。 ・「月の心」「いじめアンケート」等のアンケートを毎月実施し、潜在的ないじめに対応する。 ・毎週の連絡会で、「気になる児童」の情報共有を行う。 ・教育相談週間で全児童と担任が1対1で話す機会をつくる。その後も相談しやすい雰囲気作りをする。 ・ウェブQ-Uを年2回行い、早期に結果を分析し児童理解を図るとともに、よりよい学級経営に向けての手立てを講じる。 ・小中合同で教育相談協議会や教育相談に関する研修を行い、児童生徒理解を図る。 ・6年生については、中学部進学に際し、「気になる児童」について中学部との情報共有を図る。					育ち部 いじめ関連 教育相談
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・特別活動や各学年・学級における学習活動の様々な場面で、児童に出番・役割を与え、承認することにより、児童の自主的・自発的活動を促す。 ・キャリアパスポート等を活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようにする。					誇り部 キャリア教育
●郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成	○「地域を活用し、思斉学に取り組んだ」と回答する教員を85%以上にする。 ○「小中一貫校であることを意識して教育活動を行った」と回答する教員を90%以上にする。	・昨年度末に更新した指導計画や「地域人材リスト」を活用し、様々な教育活動の際に、講義や手伝いを依頼する。地域人材活用への職員の意識を高めるために、活用できる教育課程においては、教務や管理職から職員に声を掛ける。 ・小中合同ボランティアにおいて、出番や役割を与え、児童生徒がやりがいを実感できる活動を考える。また、児童生徒にとって互恵性のあるものにする。 ・職員小学部、中学部の間で、いつでも授業を参観できるような関係を作っておく。また、合同で授業研究会を行うことで、指導の一貫性などについて共通理解を図っていく。					教務 小中連携	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童を90%以上にする。	・「早寝早起き朝ごはん週間」を実施して、自分の生活を見直す機会を設け、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・自分の健康を維持するために、各学年に応じた栄養指導を行い、食事の大切さを学ばせる。必要に応じて、栄養職員が授業に参加する。 ・年1回給食運営委員会、各学期に献立委員会を行い、保護者へ給食への理解を図る。 ・給食だよりで規則正しい生活や食事の大切さについてお知らせをする。					育ち部 食育
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定する。 ・分掌事務、行事、成績処理、長期休業中の研修計画等の改善を図る。 ・各自、勤務管理システムで時間外勤務や年休取得の状況を把握し、働き方を調整する。 ・年休を取りやすい行事計画、支援体制を考え進める。					教頭
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができていてと回答した教員を90%以上にする。	・配慮を要する児童の個別の指導計画の作成を100%とし、支援に生かす。 ・必要に応じて教育支援会議を行ったり、巡回相談や専門家チームの派遣を利用したりして、よりよい支援を行う。 ・夏季休業中に講師を招聘して発達障害児の支援に関する研修を小中合同で行う。また、特別支援学級の自立活動の授業参観及び授業研究会を行うことで、職員全体の意識を高める。					育ち部 特別支援学級

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	達成度 (評価)	学校関係者評価		
				進捗状況と見通し	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導の充実	○誰にでも「あいさつ・返事」ができる児童の育成	○「児童はあいさつ・返事ができている」と回答した教員、保護者を90%以上にする。	・小中で共通目標を掲げて、あいさつに取り組む。 ・生徒指導協議会の協議の柱とし、取組を振り返る場を作る。 ・学校・保護者・地域と連携してあいさつ運動を行う。 ・学期始めに「あいさつ」に関する生活目標を掲げて各クラスで取り組んだり、児童会が中心となって全校であいさつ運動に取り組んだりする。 ・小中合同生徒指導協議会を開き、4つの重点目標について共通理解を図り、発達段階に応じた取り組みを協議する。					育ち部 生徒指導

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--